

論
説



道路鋪装の効果

安藤 狂四郎

軌近交通界の發達は平面的より立體的即ち海陸空の三方面を通して各其の機關設備に適應する方法が考究せられ急激的進歩の趨勢を呈し、國防に産業に又文化生活上に向上發暢の途を認むるに至つたが陸上設備の一として道路の機能を増大ならしめて此の趨勢に伴はしむることは焦眉の急務である。特に這次戰時體制下に於て國策に順應するの方策を講ずるは銃後の經營に寄與する所以にして、苟くも之れを忽諸に付するが如きことがあつてはならぬ。去りながら戰時財政は一般的道路改良事業を意の如く進捗するを許されない。故に少くとも中央地方相協力して道路鋪装の普及を圖り、國情の要求に應ずる所あらしめねばならぬ。仍て聊か道路鋪装の効果に關し所見の一

端を述ぶる次第である。

今我國の道路舗装の現状を見るに東京其の他の大都市に於ては舗装の普及發達の見るべきものがあるが、全國を通觀すると其の舗装道路の延長は極めて短かく幹線たる國道に於てすら總延長八千六百九十軒に對し舗装延長は漸く千九十七軒に出でないので、其の比率は僅かに十三パーセントに過ぎない。更らに府縣道に至つては總延長十一萬二千二百九十八軒に對し二千六百十三軒に過ぎないので、僅かに二パーセントの比率を示すのみである。斯る状態を見ると如何にしてか道路運用の増大を望み得べきか寔に慨歎を禁ずる能はざるのである。吾人が道路舗装の普及を企圖するは決して故なきことでない。

左に舗装に依る道路利用上の效果如何を略述せん、

一 揮發油節約上の利益

路面の良否殊に舗装の有無に依り自動車の燃料消費量に相當の差異を生ずるは極めて明白であつて、各地に於ての實例に徴するに砂利道を舗装するときは概ね二十パーセント前後の揮發油を節約し得るのであると云ふも過言でない。

最近我が國に於ては自動車の躍進的增加に伴ひ、其の揮發油消費量は逐年著しき増大を示し、昭和十一年の如き全消費量百二十八萬軒中九十パーセントを自動車燃料として消費せるの實情である。

實に驚くべき有様である。故に道路舗装の普及に依り揮發油數量の消費を節約し得べき數量の相當著大なるものあるべきは想像に難からざる所である。

更らに一面に在りては我國石油の生産額は頗る僅少であつて需要量の大部分を輸入に仰がざるを得ない實情であるは多言を要せず、世の知悉する所である。従つて人造石油事業の振興其の他各種の増産方策を必要とすると共に、國防上並に國際收支適合上相當程度の消費節約を必須とする現下の我國情に鑑みるときは燃料國策の見地よりするも亦主要幹線道路の舗装は喫緊の要務と謂はざるを得ないのである。

二 自動車原價償却費輕減の利益

舗装道路は砂利道に比較して路面の自動車に對する牽引抵抗著しく少きが故に、砂利道を舗装するときには自動車の使用年限を著しく延長することを得て原價償却費を輕減するの利益がある。民間業者の言ふ所に依れば舗装道路に於ては未舗装道路に比し優に二倍の期間自動車を使用するを得るものであると、假りに之を一倍半期間を延長するの效果ありとすると従來使用年限四年のものは六年となり、年平均原價償却費は其の三分の一を減ずるの計算を示す、之れを全國普通自動車總數十二萬臺に付一臺平均價額五千圓使用年限六年として計算すると償却費の輕減額即ち利益は一年約五千萬圓の巨額に上るのである。又更に「タイヤ」其の他の部分品に付て見るも、使用年限の延長

に依り相當大なる利益を擧げ得べきことは勿論である。

念ふに、自動車の産業上又國防上極めて重要なるは勿論の事で、之に對しては十分保護助成の途を講ずるの必要がある。然るに最近に於ての我國自動車の普及發達は相當顯著なるものがあるにも拘らず、未だ漸く世界の第十二位を占むるに過ぎない、殊に北米合衆國、フランス、イギリス、ドイツ、カナダ等の諸國に比較すると其の發達頗る幼稚であるのは、道路改良事業の進展遅々として進まず、殊に舗装道路の普及が極めて遅緩せるに基因するものと謂ふことを得るのである。果して然らば主要幹線道路を舗装して其の普及發達に資することは刻下寔に緊切の要務であると斷言するを憚らなうのである。

三 運輸時間短縮に依る利益

道路の舗装に依つて自動車の運轉が安全迅速となり、高速度交通機關としての機能を十分に發揮することを得るに至るのは明白な事實である。道路の舗装に依り從來不可能視された長距離交通が始めて可能となり、産業の振興、地方の開發に資する場合が少なくないのみでなく、從來自動車交通の可能であつた地域相互間に於ては更らに交通上一層の圓滑を加へ、取引上一段の活況を呈するに至るべきことは當然である。然るに、道路舗装が前述の如き状況であるから、近時軍需工業、其他生産力の異常な發展擴充に伴ひ物資輸送急激に増加せる地域に於て運輸の圓滑迅速を期することを

得ない場合が少なくないのみでなく、運輸時間の長き爲に其の料金の不廉が、産業貿易の振興を阻害する場合も必しも鮮少でないのである。斯の見地からするも、道路を舗装して運輸時間の短縮を圖り以て料金の引下、生産費の低下に資することは、現下の産業貿易の實情に鑑み極めて肝要な方法である、と謂ふべきものである。

四 道路維持修繕費節減の利益

道路の機能を十分發揮する爲には、絶えず路面を良好の状態に保持するの必要がある故に、道路改良事業の進展に伴ひ之が維持修繕費は一般に増加するの傾向が明かに認めらる。然るに此點に關し、砂利道と舗装道路とは大なる徑庭があつて、砂利道は比較的多額の維持修繕費を要する、而も交通量の増加に伴つて維持修繕費も遞増するのであるが之れに反し、舗装道路の維持修繕費は少額を以て足るばかりでなく、交通量の増加に伴ふての遞増率も極めて尠少である。従つて、舗装工事施行の際特別の經費を要することは勿論であるが、爾後に於ての維持修繕費を考慮するときは、一定の交通量が存する道路を舗装しないのは却つて不經濟であることは敢て説明を要しない所である。

五 國民保健上並に沿道農作物に及ぼす被害の防除

自動車が砂利道を疾驅する際一般通行者に塵埃を被らしめ雨雪時に於て泥土を飛散する等の情

景は日常散見する所であるが殊に行往座臥自動車の疾走により砂塵を飛散せらるる沿道住民の保健衛生上に及ぼす悪影響に至つては相當深刻なるものがある故に時局下保健國策の見地からも速に道路を舗装して之を防除するは極めて肝要な施設である。

若し夫れ自動車の疾走により飛散する砂塵の沿道農作物に與ふる損害に關しては、從來必ずしも世人の注目を惹かなかつたが、其の實害は決して少なくない。試みに最近某縣に於て行ふた沿道農作物被害調査の結果を見ると道路近接地帯は十數間を隔て砂塵の影響皆無と見られる土地に比し多きものは五十パーセント、少きも十五パーセントの減收を示すのである。(道路の改良第十九卷第九號一〇八頁以下参照従つて銃後農村安定の見地から見ても又生産確保の趣旨から云ふも、之に關しては速に適當な防除對策を講ずることは極めて必要であつて決して之を看過してはならないのである。